

保育あき友

第67号

令和6年3月31日

題字：故 小畑勇二郎 書（秋田県知事）

● 巻頭言

令和5年度を振り返る

秋田県保育協議会 会長 大友 潤一

● 情報提供

秋田県教育庁幼保推進課 課長

聖霊女子短期大学生活文化科 教授

いなみ小児科ファミリークリニック

新号 和政

大曾 基宣

医院長 稲見 育大



秋田県保育協議会

令和5年度を振り返る



秋田県保育協議会
会長 大友 潤一

平素は当協議会の活動に御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。令和5年度は日本全体が大きく方向転換、漸く日常を取り戻す光が見えた5月のコロナウイルスが5類感染症への位置付けとなったこと。これにより各方面での行事、会議、研修等、そして我々の保育現場での活動が、コロナ禍以前に大きく戻ったと感じました。県の研究大会も完全参加型で鹿角大会を開催しました。青森で北海道・東北ブロック大会も開催され、秋田県選出の雄物川保育園が見事全国大会へ選出されました。大分県別府市の全国大会でも高い評価を得る発表を成し遂げました。本当にお疲れ様でした。

7月には秋田県内を豪雨が襲いました。私自身は先に述べた大会で青森に居り、秋田に帰ることができなくなりました。漸く帰路に就いた道中、五城目町の悲惨な状況に、映画やドラマを見ているのかと思いました。秋田市内の会員園も甚大な被害を受けました。子どもたちのために全力で保育を継続しようとした職員のみなさんや、仲間を助けようと全力で手を差し伸べた会員園。それぞれの行動に頭が下がる思いでした。未だ以前の生活に戻れない方が多々いらっしゃるとお聞きします。行政は想定外の豪雨だったと言いました。想定外を我々は想定して、子どもたちの、職員の、施設の危機管理をしなければならないのだと感じました。

令和4年の出生数は、初めて80万人を割り77万人でした。令和5年上半期の出生数は、過去最少の37万1,052人。更に少子化に拍車がかかった結果となりました。秋田県においても令和5年10月1日現在、3,760人です。最大の課題である過疎地の施設運営に関して、秋田県とも協議を重ねてきましたが、残念ながら市町村からの委託ですと一言を濁されるばかり。県協議会としてできる限りの協力はさせていただきますが、やはり各々が地元の保育行政に対して訴えること、政治力を使うことが必要不可欠になるのではないのでしょうか。

元日からまさかの大地震。親戚が集まり宴をしている最中の携帯電話からの警報アラーム。何事かと思うとテレビ画面は切り替わり、石川県の様子が映し出されました。潮が引く様を見て「津波が来る！」あの時の光景を思い出しました。元日からこんなことが起こるのか？一気に酔いが醒め、宴どころではなくなりました。建物はほぼ倒壊し、下敷きになり多くの方がお亡くなりになりました。復興までの道のりは遠いと思います。東北が全国の方に支えていただいたように、今度は石川県を我々が支えなければなりません。こども誰でも通園制度や75年ぶりの配置基準の改善、こどもまんなか社会の実現に向けて、御旗を掲げるだけでなく、実際に子どもたちが安心して成長できる社会、保護者が安心して子育てできる社会になることを願います。引き続き皆さまからの御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

「本県の子どもたちの健やかな成長のために」



秋田県教育庁幼保推進課
課長 新号 和政

「保育あきた」第67号が発行されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、発行に当たり御尽力されました関係者の皆様方に深く敬意を表します。

また、本県の子どもたちの健やかな成長のために、日頃から保育事業に御尽力くださるとともに、県の就学前教育・保育施策に特段の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。特に、今年度はバス送迎の安全管理に関し、安全装置の装備と所在確認を義務化しましたが、安全装置の装備率は現在99%に達し、年度末には全ての装備が完了する見込みとなっており、皆様の御協力に感謝いたしますとともに、引き続き、安全管理の徹底に取り組まれますようお願い申し上げます。

さて、国では令和5年12月に「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども施策を総合的に推進するための「こども大綱」を定めるとともに、次元の異なる少子化対策の実現に向けて、今後3年間の集中的な取組を掲げる「こども未来戦略」を策定しております。こども大綱では、幼児期のこども施策に関する重要事項として、地域や家庭の環境にかかわらず、全てのこどもが格差なく質の高い学びへ接続できるよう、幼保小の関係者が連携して、幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続の改善を図るほか、保育者等への支援の重要性から、保育士や保育教諭等の処遇改善のほか、現場の負担軽減や職員配置基準の改善を進めることが掲げられており、こども未来戦略において、具体的な取組が示されております。

県では、来年度に向けて、こうした国の施策と連携しながら、一層力を入れて幼児教育・保育の質の向上に取り組むこととしており、幼保小の円滑な接続については、教育・保育アドバイザーの配置を主とした市町村の推進体制づくりの成果等を踏まえ、地域の幼保小連携の基盤づくりや架け橋期のカリキュラムの開発・実施への支援を充実させてまいります。また、保育士の処遇改善や業務負担の軽減等については、国と共に処遇改善加算の助成等を継続するとともに、市町村や施設のニーズ等に対応し、保育士産休等代替職員補助事業の補助基準額の引き上げや、保育体制強化事業による保育支援者の配置市町村の拡充等を実施することとしております。

県内の就学前教育・保育施設においては、少子化の進行に伴う利用児童数の減少や、エネルギー・物価の価格高騰に伴う経費負担の増加が続くなど、施設運営を巡る環境は厳しさを増しております。また、特別な支援を要する子どもの保育ニーズの高まりや、こども誰でも通園制度（仮称）の導入など、保育が多様化し、保育士等の確保や経営上の課題等が新たにみられております。

このため、県では、貴会をはじめ関係団体や各施設への調査等を通じて、保育現場の実態をより具体的に把握し、本県の実情に即した改善等が行われるよう、国に対しては制度改正と財政支援を強く要望するとともに、市町村と連携しながら、持続可能な保育提供体制づくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後も御理解と御協力をお願い申し上げます。

屋外でのリスクプレイが育む力 －「心が折れるよりも骨が折れる方がまし」の精神－

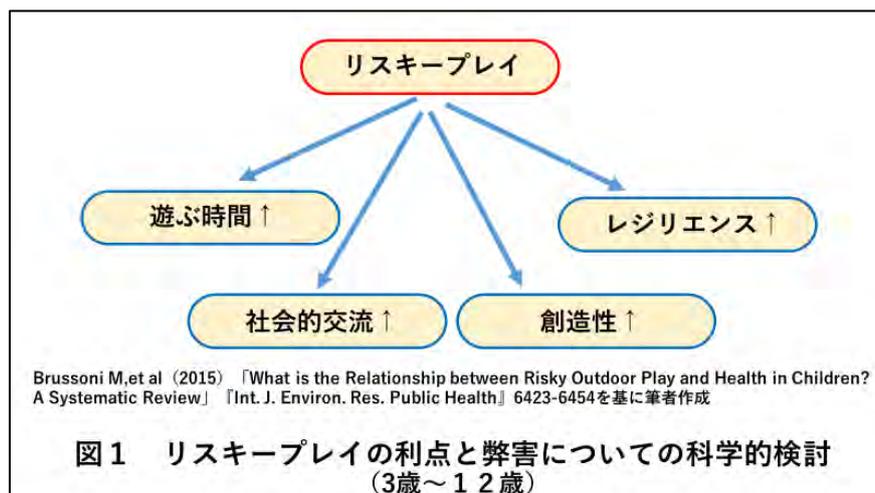


聖霊女子短期大学 生活文化科 生活こども専攻
教授 大曾 基宣

世界では、毎年100万人近くの子どもたちが不慮の事故による傷害を原因に死亡しています(Peden,M.ほか,2008)。日本でも、不慮の事故は子どもの死因の上位であり(消費者庁, 2023)、子どもを危険から守り、子どもが安全に生活できる環境づくりが求められています。

一方、最近の子どもの遊び環境に関する研究では、大人が子どもたちの安全を重視しすぎるあまり、屋外での危険な遊び(以下、リスクプレイ)を過剰に制限してしまい、子どもの発達が阻害されてしまう可能性が指摘されています。Sandseter の分類によると、リスクプレイとは、「高さ」「スピードの速さ」「危険な道具」「危険な要素(落ちる)」「取っ組み合い」「視界からいなくなる」などの要素を含む遊びです(Sandseter,2007)。

システマティックレビュー(一定の基準を用いて文献をくまなく収集・分析し、結果を総括的に評価する方法)により、リスクプレイの利点と弊害について科学的に検討した報告(3歳から12歳対象)では、リスクプレイを支援する環境は、子どもが遊ぶ時間の延長、社会的交流、創造性、レジリエンス(精神的回復力)の向上を促進するという結果(図1)や、高所での遊びは骨折の頻度や重症度とは関連していないという結果が報告されています。



2018年に、愛知県で幼児対象の“冒険あそび場”の企画・制作・運営に携わったことがあるのですが、そこでの観察を分析した結果、リスクプレイを中心とした普段やりたくても

できない遊び、ダイナミックな遊び、自ら考え遊びを創るプロセスのある遊びにおいて、子どもたちの熱中度が高く、熱中時間が長い傾向が見られました(山下晋ほか, 2019)。

このような報告は世界的に散見され、最近は子どもの遊び場に関して「可能な限り安全に」から「必要な限り安全に」へのパラダイムシフトが提唱されています (Brussoni,2012)。例えば、イギリスでは、国会議員のグループによる報告書の発表を皮切りに、意図的にリスクを取り入れた遊び場が作られてきました。ここでは、リスク・便益分析により必要な限り安全な遊び場が作られています。日本においても冒険遊び場 (プレーパーク) が広がっています (木下勇, 2020)。発端は、アレン・ハートウッド卿夫人の著書「都市の遊び場」です。本稿タイトルにも使用させていただいた「心が折れるよりも骨が折れる方がまし」という言葉は、彼女が残したものです。

しかしながら、日本における子どもの遊び場は、十分に存在するとは言えないのが現状です。実際に日本は、子どもの権利条約 31 条の遊びの権利が侵害されているという旨の勧告をユニセフの子どもの権利委員会から過去数回受けています。

いま、私たち大人は、リスクマネジメントの徹底に努めた上で、「目の前の」子どもの安全だけでなく、「将来」子どもが自分で自分の安全を守るという観点から、子どもが自ら考えて挑戦できるような危険を含む遊び環境の教育的価値を再考する必要があるのかも知れません。

そうは言っても、保育現場で子どもが怪我をした場合、保育者は保護者への説明に苦慮すると思います。それがいまの日本の現状でしょう。世界的にみると、リスクプレイへの保育者の許容度は「訴訟への恐怖」と関連していることが報告されています (Sandseter,2012)。

ところが、人々が自然の中での遊びを文化的に大切にしているノルウェーでは、リスクプレイに対しての許容度が高いことが確認されています。



図2 あそび場創造プロジェクト【聖霊女子短期大学】の様子

秋田県初心者の私ですが、これは自然豊かな秋田県でも言えることではないかと感じています (例えば、そりすべりはリスクプレイと捉えることができます)。自然の豊かさにしても、道行く人の温かさにしても、秋田には子どもの遊びを大切にする温かいまなざしや文化が残されているように思うのです。

さて、聖霊女子短期大学の生活こども専攻では、2023 年度から「あそび場創造プロジェクト」と題して、未就学児を中心とした子どもたちが思いっきり遊べる、居心地の良い遊び場を創る取り組みを始めました。ワークショップ、運動遊び、手作りゲーム、玩具、絵本などを用意して、保育者を志す学生が子どもたちと関わります (図 2)。2023 年度は、本学以外にも秋田県児童会館などを会場にして全 5 回開催しました。2024 度からは、さらに外に出て秋田の子どもたちの遊び場づくりに少しでも貢献したいと思っています。

支援の答えはどこにある？



いなみ小児科ファミリークリニック
医院長 稲見 育大

毎日、毎日、朝から晩までエネルギーの塊のような子どもたちを相手に休む暇もなく働かれているみなさん本当にご苦労様です。そして、ありがとうございます！

私はクリニックで診ている子どもたちを見に保育園に時々伺うのですが、そんな時保育士さんはみんなとても熱心に子どものことを教えてくださいます。子どもへの愛情がひしひしと伝わってきて、自然と私も熱くなります。そしてどのような支援をしたらよいのかと一緒に考えますが正直わたしから状況を一変できるような助言ができることはほとんどありません。というのも、適切な支援をすでに行なっているからです。それでも医師という立場を取り繕うためにちょっと偉そうに「それでいいと思いますよ！その調子ですよ。」というのが精一杯です(笑)。

それから先日、ある保育園に招待されて気になる子どもへの支援のお話をさせていただきました。その時、いつも同じような話になってしまうので事前にアンケートを取ってみました。「何度言っても同じことを繰り返してしまう子にどんな対応をしますか？」と言った感じの質問です。そして結果を見てまたまた動揺しました。私が話そうと思っていたことのほとんどは其中に書かれていたからです。

こんな体験から私は「答えはみんな保育士さんの中にある！」ということを確認しています。でも皆さんは「そんなことはない」と感じているかも知れませんね。それはなぜなのでしょう？子どもは日々の積み重ねで少しずつ、少しずつしか成長しません。どんなによい支援をしても短期間では変化が見えないのです。ですから子どもたちをみて「これでいいんだ！」とを感じるのがとても難しいのです。ではどうしたらよいのでしょうか？

そうです、みんなで話し合うことです！「つばさくんにこんな支援をしているけどいいのかなあ？」と仲間と話してみてください。話し合うことで方向性の正しさを感じることができると思います。と同時に同じ方向性だけれども違ったアプローチ方法にも気付けるはずですよ。これは先ほどのある保育園での事前アンケートでも実感しました。「もう話し合っています！」と言われてしまいそうですが、もっともっと時間をとって繰り返し話し合ってもらえたらと思います。お忙しいのは重々承知ですがこれは私からのお願いと思っていただけたらと思います。そしてまた、医師や心理士や発達支援を専門としている保育士など外部の人とも話し合ってみてください。その時は何か新しいことを教えてもらうというよりも、異なった角度から子どもたちを見てもらうことで、自分たちの行なっている支援がどんな意味を持つのか考える機会だと思ってください。皆さんが日々自然に行っていることにとても重要な意味があることに気がつくと思いますよ。

皆さんのお仕事は本当に大変な仕事だと思います。でもその子の人生の根っこを育てるとても素晴らしい仕事です。「答えは私の中にある」と信じてこれからも頑張ってください！

令和5年度 第3回常任委員会報告

令和6年2月19日(月) 13:30~17:00 場所：県社会福祉会館8階 事務局

【参加者】 会長・副会長・各部長・中央関連委員・事務局

【会長挨拶】 幸いにして雪がいつもより少ない状況でありますので、皆さまに集まっていただきました。お忙しい中、ありがとうございます。午前中正副会長会議で話し合った内容については、この後ご説明あると思いますし、各事業部の説明も受けたいと思います。本日の次第のその他の部分がボリュームあるものとなっておりますので、迅速に事を進めていけたらと思っております。皆さまどうかご協力よろしくお願ひします。

【協議事項】

(1) 令和6年度総会について

開催日時 令和6年4月19日(金) 14:00~

会場 秋田市にぎわい交流館AU 3階 多目的ホール

議長 男鹿・南秋地区より

議事 令和5年度事業報告

令和5年度決算報告 監査報告

会則・規程の一部改正について

令和6年度事業計画(案)

令和6年度収支予算書(案)

(2) 各事業部報告について

○総務部

総務部としては、一本化になった組織の運営が順調に進むよう組み立てた会則や様々な規程(慶弔、旅費、研究大会発表表彰、災害互助、地域交流助成事業)や予算等に注視した1年となりました。会則や規程については、早々に変更箇所を更新するべく、常任委員会に図り、春の総会に向けての準備を進めております。予算等につきましては、物価高騰の影響が顕著にみられ、新型コロナウイルスが第5類になったことから、対面による研修会の参加も多くなり、それを支える部員の活動も積極的に動かれている様子が一般会計や予算対策活動費から伺えます。今後はWEB中心から対面へと移行していく傾向になると感じています。また、災害互助制度並びに地域交流助成事業の各種申請利用が増え、これまで同様推し進めていく所存です。

○広報部

今年度より紙ベースの冊子をやめたことにより会員施設へメールで添付また、秋田県保育協議会のホームページにアップする形となりました。紙面版でなくなったことにより、会員園の皆様がご覧になっていただけているか若干の不安もありますが、今後のベースになっていくものと期待しております。

広報としては、様々な研修会に出席された先生の声をしていただくことができ、参加できなかった先生方にも研修会の情報を届けられたのではないかと考えております。今後は、他部との連携も図りながら、皆様に有意義な情報を発信していけるように部員一同協議していきたく思います。

○研修部

今年度も、すべての研修においてキャリアアップの認定を受けることができ、多くの方の参加を得て一人一人のスキルアップにもつなげることができたと思っております。対面式の研修と実践研修を再開することができ、集合型研修の良さを改めて感じることができました。また、32次保育士研修会では、二次募集をし、より多くの方に学びの機会を提供することができました。今後も内容と方法を工夫し研修会を開催していきます。

○研究大会部

組織一本化となり、研究大会部としては初の活動となりました。6月の鹿角市での秋田県保育研究大会は4年ぶりの参集型の開催となりました。とても心に残る素敵な研究大会だった事を、今でも時々思い出しております。今後も皆様と共に明るい未来となる研究大会が開催できるように、部全体で協力し取り組んでいきたいと思っております。

○運営研究部

運営研究部として、公定価格のプロジェクトチームの編成も視野に入れて公定価格の勉強会を開催しました。今後は、プロジェクトチームの支援等を行ってまいります。園長セミナーの開催では、雄物川保育園さんの全国保育研究大会の発表を会員施設の皆様にも聞いていただき、今後の各園の研究発表に活かしていただきたいと開催しました。この後各市町村の担当課あてに補助金等のアンケート調査をする方向で動いております。調査内容としては、障がい児保育補助金の内訳についてと市町村単独の補助金の概要についてです。集計結果を一覧できるようにしたいと思っております。

○青年部

会員向けの研修会というスタイルではありませんでしたが、全私保連青年会議北海道・東北ブロック情報交換会を秋田県(横手市)で開催しました。秋田県保育協議会等の取り組み事例を紹介しつつ、他地区の現状や課題などについて情報交換を行い交流する機会を持てたことは部員にとって非常に有意義な機会になりました。今後は、青年部単独の事業に加えて、他部との連携・共同事業の企画も模索したいと思っております。

(3) 令和6年度第72回北海道・東北ブロック保育研究大会について

開催日 令和6年7月10日・11日(水・木)

会場 秋田キャッスルホテル

(4) その他

令和6年1月1日16時10分に発生した「能登半島地震」に関して、皆さまも正月どころではない、苦しい気持ちになったことでしょう。秋田県保育協議会として何かできないかと考え、常任委員会に図り、義援金という形で被災された方たちを支えることにしました。スピード感を持って早目の送金をするべきとの声も上がり、協議委員会へ報告後、早々に「保育三団体被災地支援募金」へ100万円を送金することにしました。

県保協 HP から各申請書がダウンロードできます

災害互助制度について	地域交流事業について
<p>会員園がお互いに助け合いの精神によって災害互助制度を設け、保育活動の充実に寄与することを目的としています。園内外の保育活動中はもちろんのこと、園児の登降園中や職員の通勤途中の事故に対し、被災者にお見舞金を給付する制度です。</p> <p>これからも皆さまにとって活用しやすい制度を目指してまいりますので、お気づきの点がありましたら事務局までお寄せください。</p>	<p>会員園同士が個々の活動を超え、2か所以上の施設が連携して行う保育活動に対し助成するものです。児童や保護者の交流や職員の研修等の事業を対象とします。申請は事業開始1か月前まで、報告は助成事業完了後2か月以内に本会長あてに報告してください。(期限後も受付可)</p> <p>こちらも皆さまへの周知・浸透を図っています。行っている事業がありましたら、対象となるか確認してみてください。</p>

総 務 部

【今年度計画】

- ・新たな会則（案）、規程（案）の情報発信及び内容検討
- ・災害互助制度及び地域交流事業の活用の推進
- ・予算の執行状況の把握、各部会の活動に向けての支援
- ・総会開催の準備

【実施した部会】

- 第3回 日時：12月7日（木）13：30～15：30
場所：WEB 開催
内容：上半期の予算執行状況について
災害互助(自然災害のとらえ方)について
地域交流助成事業について
第72回北海道・東北ブロック保育研究大会について
- 第4回 日時：2月9日(金) 13：30～16：00
場所：WEB 開催
内容：決算報告(見込み)と予算(案)について
会則(規程)の一部変更について
今年度事業の振り返りについて
次年度事業について
総会の役割分担について

【部からのメッセージ】

総務部としては、一本化になった組織の運営が順調に進むよう組み立てた会則や様々な規程（慶弔、旅費、研究大会発表表彰、災害互助、地域交流助成事業）および予算等に注視した1年となりました。

会則や規程については、早々に変更箇所を更新するべく、常任委員会に諮り、春の総会に向けての準備を進めております。予算等につきましては、物価高騰の影響が顕著にみられ、新型コロナウイルスが第5類になったことから、対面による研修会の参加も多くなり、それを支える部員の活動も積極的に動かれている様子が一般会計や予算対策活動費から伺えます。今後はWEB開催から対面へと移行していく傾向になると感じています。また、災害互助制度並びに地域交流助成事業の各種申請利用が増え、これまで同様推し進めてまいります。新組織2年目に向かい、是非皆さまからのご意見・ご要望等お寄せいただきたいと思います。と思っています。

（総務部長 島山 柳子）

研修部

【今年度計画】

- ① 令和5年度 第32次保育士研修(6/27、7/21、10/3・6 計3回)の実施
- ② 第19回 保育の質を高める研修会(8/3)の実施
- ③ 第26回 保育カウンセリングセミナー(8/31)の実施
- ④ 令和5年度 北海道・東北ブロック保育研修大会(10/12)への協力
- ⑤ 令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会の計画

【実施した部会】

- 第6回 日時：12月13日(水) 13:30～15:45 WEB開催
内容：・令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会
(R6.7/10～11)について進捗状況の確認
・今年度の振り返りと来年度に向けて
- 第7回 日時：2月7日(水) 13:30～15:00 WEB開催
内容：令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会
・オープニングについて
・懇親会について
・記念講演について
・令和6年度研修計画について

【部からのメッセージ】

来年度は、北海道・東北ブロック保育研究大会において、心に残る学びと交流の2日間となるよう、実行委員の皆さんと協力し知恵をだし合って準備を進めてまいります。また、33次保育士研修や他の研修において、より保育の質の向上につながる機会となるよう部員一同頑張っております。

(研修部長 飯田 裕美子)



研究大会部

【今年度計画】

- ・北海道・東北ブロック保育研究大会への選考発表会に向けての準備
- ・北海道・東北ブロック保育研究大会に向けての準備

【実施した部会】

- 第3回 日時：1月19日（金） 10：00～16：00
場所：保育協議会 会議室
内容：資料の校正
選考会の主旨文・要綱について
令和6年度第1回目の部会について

【今後の部会予定】

- 第1回 日時：5月中旬予定
内容：北海道・東北ブロック保育研究大会への選考発表会について

【部からのメッセージ】

秋田県保育協議会会員の皆さまには、日頃よりご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。部員一同、北海道・東北ブロック保育研究大会への選考発表会、北海道・東北ブロック保育研究大会の開催準備を進めております。会員の皆さまの、たくさんのご参加を心より願っております。

（研究大会部長 田口 志織）



運営研究部

【今年度計画】

- ・アンケート、調査の実施
- ・公定価格勉強会の開催
- ・園長セミナーの開催

【実施した部会】

- 第5回 日時：1月24日（水） 13：00～15：00
場所：WEB開催
内容：調査の内容について
 プロジェクトチームのメンバー発表
 令和6年度の事業計画について
- 第6回 日時：2月8日（木） 13：00～15：00
場所：WEB開催
内容：アンケート調査内容・調査方法について

【今後の部会予定】

- 第7回 日時：3月下旬予定
内容：調査について

【部からのメッセージ】

新たなスタートとなりました秋田県保育協議会、運営研究部としては、今までの継続的な事業も含め、新しい取り組みとして、公定価格の勉強会の開催、プロジェクトチームの立ち上げ等を進めてきた一年間です。県内で公定価格に詳しい人材育成をこれからの課題として考えております。会員の皆さまには活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（運営研究部長 吉川 誠治）



広報部

【今年度計画】

- ・ 広報誌『保育あきた』の発行
- ・ 年2回の『瓦版』の発行

【実施した部会】

- 第5回 日時：1月25日（木） 13：30～15：20
場所：保育協議会 会議室・WEB 併用
内容：『保育あきた』について
表紙の有無や原稿執筆者の選考
今後の日程について
渉外部としての進捗状況
(冊子と名簿 4社から見積もりをいただいた)

- 打ち合わせ 日時：2月5日（月） 13：00～15：00
場所：保育協議会 会議室
内容：ホームページ業者さんとの打ち合わせ

【今後の部会予定】

- 第6回 日時：2月28日（水） 13：30～
内容：広報誌『保育あきた』の校正作業
誤字脱字修正 等

【部からのメッセージ】

『保育あきた』を発行しました。今年度から冊子ではなく、秋田県保育協議会ホームページにアップする形となりました。是非とも各園で印刷し、職員の皆様にもご覧になっていただければ幸いです。

目まぐるしく変化を遂げている昨今、少しでも会員園の皆様にとって有意義な情報発信となるよう部員一同頑張っております。

今年度もお忙しい中、広報活動へご協力いただいた役員の皆様はじめ各施設の先生、関係機関の皆様々に感謝申し上げます。

今後とも広報部の活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(広報部長 川嶋 博英)

青年部

【今年度計画】

- ① 青年部研修会の企画および運営
- ② 他部との連携の推進
- ③ 青年部、県組織の魅力および情報の発信
- ④ 人材発掘および部員確保のための継続的な取り組み
- ⑤ 全国組織（全保協、日保協、全私保連）の活動への参加

【実施した部会】

第5回 日時：3月8日（水）13：00～17：00
場所：保育協議会会議室・WEB開催
内容：今年度の振り返り、次年度に向けて等

【実施した事業】

令和5年度 全国私立保育園連盟青年会議北海道・東北ブロック 情報交換会
日時：11月24日（金）15：00～
場所：よこてシャイニーパレス（横手市）
内容：秋田県保育協議会等の取り組み事例紹介、情報交換など

【部からのメッセージ】

11月に全私保連青年会議北海道・東北ブロック情報交換会を企画し、県保協等の活動紹介・魅力発信、ならびに各地区青年部員との交流を通じて、他地域の取り組みを知ることや人脈作りをすることができました。

次年度は部員が得た知識等を活用し、研修会などの企画を通じて会員の皆さまに還元すべく、部内で協議を進めております。

他部との連携・共同事業にも力を入れていきたいと考えておりますので、今後も青年部の活動に対して、ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

（青年部長 伊藤 昌人）



鹿角地区保育協議会

会長 畠山 睦子
(錦木保育園長)

当地区は認可保育園7施設、認定こども園2施設、児童・未来センターを合わせて10施設で構成されています。令和5年度の事業について報告します。

1. 会議の開催

理事会	年3回
理事・評議員会	年1回
事務局会議	年3回

2. 会報「しかしか」発行

会員テーマ『私、実はこんな事習ってました!』

NO.82 (9月) 冒頭の挨拶

小坂町教育委員会事務局長 成田 昌章 氏

NO.83 (2月) 冒頭の挨拶

鹿角市健康福祉部すこやか子育て課

課長 工藤 千秋 氏

3. 研修会

○保育協議会・保育士部会共催研修会

開催方法 WEB 開催 (6/25～7/23)

演題『不適切な保育とはどのようなことか』

～保育の専門職として関わりと環境を見直す～

講師 高山 静子 氏



○保育士部会研修会（7月）

開催方法 WEB 開催

演題「子どもの問題行動は必要行動」

～見方を変えて、味方になろう～

「保護者が答えを見つける支援」

～100%伝わる努力をしよう～

講師 加賀谷 勝 氏

○保育士部会研修会（10月）

開催方法 WEB 開催

演題「子どもの食育と養育者の関わり」

講師 瀬尾 知子 氏

○鹿角学校保健会（合同研修会）

演題「大人と子どものロコモティブシンドローム」

講師 秋田労災病院 整形外科
医師 関 展寿 氏

4. 研究会

○給食研究会 年6回

テーマ「各園の特色を知る」

～自園を見直す～

○かづのスマイル研究会 年9回

テーマ「スマイルいっぱい」

～わくわく春夏秋冬～



北秋田地区保育協議会（大館・北秋田・上小阿仁）

会長 相馬 千春

（北秋田市立前田保育園長）

当地区は、大館市・北秋田地区の公立、民間、へき地保育所、認定こども園を合わせて 27 施設で構成されています。今年度の事業について概要を報告します。

1. 会議の開催

総会 年 1 回 ・ 役員会 年 4 回

2. 事業報告

○子育てを語る集い（8月22日）参加者 77 名

WEB 開催

講演 「子育ての大切さをどう伝えていくか」

～きめ細かな保護者支援の時代～

講師 大館市教育研究所

副主幹 山本 多鶴子 氏

〔目的〕

子ども育ちを支えるために、家庭と保育施設の相互関係は欠かせない。保育者が子どもと関わるのは、限定的な数年間だが、保護者は子どもが卒園した後もずっと、子どもの成長やそれに伴う様々な問題に向き合って生きていく。大事なスタート時期に私たち保育者は保護者と子どもの関わりをどのように応援していくのがよいのか、どんなことに留意したらよいのかを学ぶ。

○施設長研修会（10月5日）参加者 28 名

※3 地区の行政関係者を含む

会場 社会福祉法人蔵立会「えみの森」（由利本荘市）

〔目的〕

秋田県は全国に先駆け深刻化する少子高齢化、地域の過疎化、子どもの育成までも影響を及ぼしかねない事態に危機感を感じている。2040 年問題を意識し、まさに県北が真っ先に影響を受ける地

域であることを受け止め、「教育」「保育」「事業運営」はどうあるべきか示唆すべき時期にきている。そこで、法人合併し、新たな保育体制で今年度より事業が開始された園の視察と施設長や保護者や関係者と情報交換を行い、これからの園運営・職員の資質向上へつなげる。

施設視察

パネルディスカッション

「地域の実情や課題に応じた少子化対策」



○視察研修会（11月15日）参加者23名

〔訪問先〕

保育所型認定こども園かみこあに保育園

子育てサポートハウス わんぱーく（北秋田市）

〔目的〕

秋田県の少子化が予想以上に進み、子どもや就学前施設を取り巻く社会環境がめまぐるしく変化している。厳しい現実を前に、少しでも子どもの未来に夢と希望を持てるように施設長同士が情報を共有することが望ましい。新園舎の保育園や地域の子育てをサポートしてくれる施設を視察し、施設ならではの特徴や良さに触れ、自園の保育に活かしていく。

○機関誌 「北の保育」No.42号 編集・発行

〔内容〕

巻頭言 各事業の実施概要と感想

大館北秋田地区各保育士会活動報告

「秋田県保育研究大会」発表から

新園長インタビュー・他

能代山本地区保育協議会（能代・山本）

会長 大塚 恵
(能代感恩講保育所長)

当地区は、能代市（8施設）と山本郡3町（7施設）の15施設で構成されております。

ここ数年、コロナ禍で思うように活動ができずにおりましたが、今年度はようやく研修会を開催することができ、役員会でも情報交換を行いながら各施設の運営にも活かしていけるよう取り組んでまいりました。

令和5年度の事業について報告いたします。

1. 総会

- ・事業報告と事業計画について
- ・情報交換

2. 役員会 年3回（6月、8月、2月）

3. 施設長・保育士会合同交流会（7月）

- ・「アルビオン白神研究所の取り組み」

講師：株式会社アルビオン 白神研究所 所長 小平 努 氏

- ・スポーツ（ソフトバレーボール、ボッチャ）

4. 施設長研修会（10月）

「支援が必要な子どもについての理解と適切な対応～思いの形を重ね合わせよう～」

講師：特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏

施設長として支援が必要な子どもや保護者に対してどのような対応をしたら良いのか、どんなことをしなければならないのか、悩むこともあります。専門的な視点からの内容を聞くことができとても勉強になりました。



南秋田地区保育協議会（男鹿・南秋・潟上）

男鹿市保育協議会 会長 仲塚 鈴香
(協本保育園長)

南秋・潟上保育協議会 会長 浅野 史子
(天王こども園長)

当地区は男鹿市（7施設）と南秋・潟上地区（10施設）で構成されています。協議会の運営はそれぞれで行っていますが、例年各研修会への参加を呼びかけ合い交流を図っています。男鹿市保育協議会では、音楽を聴くことで心も体もリフレッシュし、明日への元気な保育につながりました。また、南秋・潟上保育協議会保育士部会では、同じ年齢を担当している職員同士の情報交換の場として「はな咲く会」を立ち上げ、年齢ごとにテーマをもって研修会を実施しました。

【男鹿市保育協議会】

① 保育協議会学習会

第1回学習会「シンガーソングライター 本城奈々さんによるライブ」

第2回学習会「コーヒー&コントラバスの演奏」

講師：こおひい工房 珈音 佐藤 毅 氏

② 保育士部会 未満児・以上児合同学習会

「ネイチャーゲーム」 講師 宮腰 真澄 氏

③ 園長会議 13回

④ 園長補佐会議 5回

⑤ 調理員委員会 4回

⑥ 作業手委員会 2回

【南秋・潟上保育協議会】

① 運営研修会「今必要としている子育て支援と幼小架け橋期について」

講師：大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子 氏

② 主任保育士及びリーダー保育士研修会

「クリスマスのアロマキャンドルをつくろう」

講師：小熊 智美 氏

③ 実践研究会

1. 研究テーマ「生き生きと遊ぶ子どもの育成を目指して」

～小規模保育園における子どもの育ちと遊びを支えるための保育士の役割～
(北浦保育園) 中田 沙織 先生 ・ 薄田 幸子 先生

2. NKH はな咲く会 0歳児～5歳児 (計5回)

④ 保育講座 施設公開「八郎潟たいようこども園」

講話「赤ちゃんのからだの仕組みや発達について」

～発達の土台をそだてる～

講師：助産師 菊地 世智子 氏



秋田市地区保育協議会

会長代行 上村 清正
(あおぞらなないろ園長)

新型コロナウイルス感染症が類型移行し、これまで神経質にならざるをえなかった対面での取り組みをようやく増やしていくことができるようになりました。4月より新たな役員体制でスタートしたものの、諸事情により年度途中で前会長が退任し、自身が市内会員施設長の皆様より後押しをいただきながら現在の任に取り組んでおります。つまづく場面もあろうかと思いますが確実に一步一步前に進みながら、今後も役員や会員施設長の協力を得て、様々な協議・検討をしてまいります。当協議会に関わる全ての皆様の「笑顔」を増やしていけるような取り組みをしてまいりたいと思います。

令和5年度の当会の活動は次の通りです。

1. 諸会議

(1) 総会

4月18日、各議案と共に役員改選の時期であり新役員体制に関しても承認いただきました。

(2) 正副会長会・施設長会

月1回のペースで集合形式にて開催していきましました。参加者間で活発な意見交換を行いつつ進めております。

7月の水害災害時には罹災施設より状況の詳細を報告していただき、予防策等を検討していきましました。

2. 部会活動

主任部会、給食部会、保険部会、男性保育士部会の4部門が計画に沿って実施してまいりました。

男性保育士部会は「子育て応援団 すこやかあきた 2023」へ参加しました。マスコミの取材等も受け、「男性保育士」のイメージ向上にも貢献できました。

主任部会・給食部会においては、次年度より秋田市地区保育士会と事業の整合性を確認し実施していくこととしております。

3. 委員会活動

(1) 研修委員会

2回の研修会を施設長対象に開催しました。

7月27日

「インターネットの健全利用について」

10月30日

「地域で起こり得る、異常気象に伴う河川災害について理解を深め防災意識を高める」

(2) 広報委員会

ホームページに毎月リレーコラムを更新しております。また、「協議会だより」を2回発行しました。

(3) 保育運営委員会

今年度は様々な諸事情により実施できませんでしたが秋田市議会議員厚生委委員会との懇談会等の準備を進めました。

次年度に向けては、監督官庁や市議会議員との新たな取り組みを検討してまいります。

(4) 子育て支援企画委員会

「子育て応援団 すこやかあきた 2023」に実行委員として参加しました。

当日はスタッフとして参加し男性保育士部会による寸劇と共に会場を盛り上げました。

11月11日

チラシの作成及び施設・値域に配布し参加を促す取り組みをしながら、遊学舎にて「親子で遊ぼう」を開催いたしました。子育て中の参加者へ和やかで楽しい時間を提供できました。

報告の会報を2回発行しました。

4. 地区ブロック別交流会行事

当会における交流会補助を活用しながら、各地区ブロックにおいて交流会を実施しております。地区ブロック割の見直しも行われ、2地区において「ゲーム大会」や「音楽隊鑑賞」が行われました。

5. 保育懇談会

秋田市子ども未来部（子ども育成課、施設指導室、子ども健康課）と秋田市保育協議会員との懇談会を例年行なってきましたが、今年度はコロナへの対応等を踏まえ実施を見送りました。事前に会員施設より行ったアンケート内容等を踏まえた要望や意見等の資料を相手方へ送付し、回答をいただいております。

6. 秋田市議会議員会派「秋水会」「自民党」との意見交換会

両会派との意見交換会を実施し、秋田市における「水害対応」や「障がい児保育に関する対応」および「人材確保」などに関する秋田市保育協議会としての提言を伝えつつ意見交換を行いました。

7. 今後の課題等

秋田市において「行政・政治・保育現場の三者が協同し、より良い子育て支援・体制を構築していく」事が出来ますよう、皆で取り組んでまいりたいと考えております。



由利地区保育協議会(由利本荘・にかほ)

由利本荘市保育協議会

会長 猪股 和子 (石沢保育園長)

にかほ市保育協議会

会長 吉川 誠治 (ひまわり保育園長)

当地区は、由利本荘市保育協議会・にかほ市保育協議会・地区保育士会の三団体が、連携を取り合って活動を進めております。閉園や統合で、会員施設は27施設(昨年度より3施設減)となりました。

これまで、地区として研修事業に力を注ぎ、コロナ禍にあってもリモートでの研修会を計画実施してきました。由利本荘市より「平井信義保育セミナー」開催業務を委託されて5年目になりますが、地区会員の資質及び専門性の向上につながっていると実感しております。

人口減少による危機感が増すなかで、各施設が地域の社会福祉施設として継続的に役割を果たしていけるよう、今年度も保育行政の動向についての研修を行いました。また昨年引き続き由利本荘市では、こども未来課との勉強会・市議会議員との懇談会・市への要望書の提出を行っております。令和5年度実施の主な事業を報告します。

1 会議開催

総会1回 合同役員会3回

2 研修事業

① 主任保育士研修会並びに会議(7月) WEB開催

「セルフケアで疲れを残さない体づくり」

講師 フリーインストラクター

齋藤 真弓 氏

② 園長等研修会(7月)

「保育行政の動向について」

講師 日本保育協会全国理事

社会福祉法人清隆厚生会

理事長 坂崎 隆浩 氏

③ 園長・主任合同研修会(8月)

内容 施設見学 放課後デイサービス「パレット」

にかほ市教育支援センター「ばすてる」

児童家庭支援センター「こねくと」

④ 障がい児保育研修会(10月) WEB開催

「乳幼児期に大切にしたい脳の育ち」

「発達や行動が気になる子どもや保護者に対する支援」

講師 文教大学教育学部教授

日本専門医機構認定小児科専門医

子育て科学アクシス代表

成田 奈緒子 氏

臨床心理士・公認心理師

子育て科学アクシススタッフ

上岡 勇二 氏

⑤ 給食研修会（10月）

「受動喫煙防止について」

講師 秋田県健康づくり推進課

海和 勉 氏

「保育園給食における誤嚥防止」

講師 由利本荘保健所健康予防課

鈴木 静香 氏

⑥ 幼児教育研修会（10月）

「子どもにとっての表現あそびの意味を考えよう」

講師 聖園短期大学

教授 内藤 裕子 氏

⑦ 保育研修会（12月）

内容 映画「こどもかいぎ」視聴

グループ討議

3 調査・広報活動

「由利本荘市・にかほ市 保育施設従事者名簿」作成

4 その他

・第51回秋田県保育研究大会（鹿角市）

参加者用送迎バス運行

・子ども交流事業「35回こどもフェスティバル（本荘地区）」開催（7月）

仙北地区保育協議会（大仙・仙北・美郷）

大曲地区保育協議会

会長 山信田 勢津子（大曲乳児保育園長）

大・仙・美保育協議会

会長 吉川 壮（日の出ベビー保育園長）

仙北地区は、大曲地区と大仙・仙北・美郷地区の2つの協議会で構成されており、相互に連携を図りながら活動を進めております。今年度は5月の新型コロナ5類化を受け、従前通りの対面型による研修会を多く実施することができました。実施した事業については次の通りご報告致します。

【大曲地区保育協議会】

- ① 総会 ※書面決議により開催
- ② 研修部会
 - ・部会開催（5月・2月）
 - ・実技研修会「保育に活かせるダンス」（9月）
- ③ 給食部会
 - ・部会開催（5月・1月）
 - ・各種マニュアルの書類の見直し（7月・9月）
- ④ 広報部会
 - ・部会開催（5月・1月）
 - ・広報誌「ふれあい63号」編集・発行（12月）
- ⑤ 厚生部会
 - ・部会開催（5月・2月）
 - ・リフレッシュ事業「音楽鑑賞会 マリンバ演奏」（10月）
- ⑥ 保健安全連絡会
 - ・部会開催（6月・1月）
 - ・「保健のしおり」の見直し（10月）
 - ・「感染症発生時の掲示用資料」の見直し（10月）
- ⑦ 講演会
 - 「保護者対応にあたり
みんなと一緒に考えたいこと」（7月）

【大・仙・美保育協議会】

① 保育実践研究集会 実践研究発表（2月）

<発表園>

幼保連携型認定こども園 だしのこ園

<発表テーマ>

「粘り強くやり遂げようとする子どもを目指して」

～積み重ねよう読み取り・記録・語り合い～

<指導助言・講話>

南教育事務所指導主事 石山 潤 氏

② 施設長部会

・施設長研修会（10月）

ルーテル愛児幼稚園・こども発達支援

センターオリブ園 視察

③ 保育士部会

・副園長・主任研修会及び保育士研修会Ⅰ（8月 2回開催）

「ニードル手芸羊毛を使ってブローチをつくります」

講師 梁田 ゆう子 氏

・保育士研修会Ⅱ（11月）

「国語・算数・理科・デザイン！」

講師 澁谷デザイン事務所

代表 澁谷 和之 氏

・給食担当者研修会（7月）

秋田オリジナル麴「あめこうじ」

講師 秋田県総合食品研究センター

食品加工所所長 戸松 誠 氏



横手地区保育協議会

会長 遠山 一栄
(みいりの保育園長)

令和5年度は、久々の対面による総会実施を決議する第1回総務委員会で協議会活動が開始された。長年3地区に分かれ実施していた各地区年長児の交流会「わくわくランド」は、コロナにより3年間中止していたが、感染症対策上今後開催は難しいと判断し、近隣の保育園間での交流会を行うこととし、秋田県保育協議会の地域交流助成金を活用し開催されました。

キャリアアップ研修の対象となる職員研修会をリモート研修で、講堂を借り上げ2回開催しました。

横手市教育委員会と合同により「横手地区保育セミナー」を開催し、市内小学校・保育所・特定地域型保育事業所・認可外保育施設の職員を対象に、秋田県保育研究大会の発表園である「ますだ保育園」「雄物川保育園」の発表を行い、教育委員会指導主事より講評をいただきました。

発達に心配のある子どもへの適切な支援を行うために、児童発達支援機関等との連携による研修会「すくすくネットワーク」は7回開催された。児童発達支援センター(モモの家)、横手支援学校、療育支援センター(さくらんぼルーム)職員の出席により、年齢ごとのケース検討やグループ協議・情報交換をし、支援機関の講話も行われました。

令和5年度の当会の活動は次の通りです。

(1) 総務委員会 5回

(2) 総会(4月)

(3) 研修委員会

会議 3回

研修会

① 幼児教育研修会(6月)

② 乳児保育研修会(7月)

③ 横手地区保育セミナー(10月)

④ すくすくネットワーク7回(7月3回、8月、9月、10月、11月)

(3) 広報調査委員会

会議 2回

広報「保育よこて」第34号発行(10月)

広報「保育よこて」第35号発行(3月)

湯沢地区保育協議会【湯沢・雄勝】

会長 菊子 恵美
(あおぞらこども園長)

当地区は、湯沢市・羽後町・東成瀬村の14施設で構成されており、会員の資質向上と地域に根差した保育を目指し、保育士会と連携を取りながら活動をしています。

令和5年度の事業内容は、新型コロナウイルスが5類になったものの地域の感染状況をみながら総会は中止となりました。その他の研修は以前に近い状態で計画通りに行うことができました。

諸会議と研修会の内容は次の通りです。

1. 諸会議の開催

- 湯沢市雄勝郡保育協議会 児童福祉功労者表彰（中止）
 - ・湯沢市雄勝郡保育士会 被表彰者5名
- 総会（中止）
 - ・事業報告と事業計画、予算審議
 - ・演題「未定」
 - ・講師「未定」
- 役員会（8/21）
 - ・施設長研修について、情報交換、その他
- 四役会議（4/14、6/20、2/6、3/8）
 - ・総会書面決議について・各種事業の詳細について・総会について

2. 研修の開催

- 施設長研修（10/3）
 - ・「そば打ち体験」道の駅うご 端縫いの郷
 - ・情報交換
- 給食担当研修会（9/20）
 - ・「石孫の蔵見学・みそボール作り体験」石孫本店（10名参加）
 - ・情報交換（かしま館）
- 主任研修会・保育士研修会（11/22）
 - ・講師 高橋 広子 氏（ヨガ療法士）
 - ・ヨガ教室「心と身体のリフレッシュ」
(23名参加)



3. 会報「のび発行」2月予定

表彰おめでとうございます

厚生労働大臣表彰

◇社会福祉事業従事功労者

佐藤 律子（二ツ井子ども園・保育士）
関 教子（花輪さくら保育園・保育士）

全国社会福祉協議会

◇全国社会福祉協議会会長表彰

（永年勤続功労）

松田 理佳子（新波保育所・所長）
富野 弥子（はねかわ保育所・所長）
佐々木 真貴子（本荘保育園・園長）

全国保育協議会

◇全国保育協議会会長表彰

大友 潤一（やまぼと保育園・園長）
高橋 弘美（浅舞感恩講保育園・園長）
大坂 江利子（峰浜ポンポコ子ども園・園長）

全国私立保育連盟

◇全国私立保育連盟保育功労表彰

九嶋 洋子（轟保育園・園長）
吉村 美奈子（牛島ルンビニ園・園長）

日本保育協会

◇日本保育協会永年勤続保育者表彰（施設長）

菊地 久子（上北手保育園・園長）
茂木 厚子（たしろこども園・園長）
佐々木 真貴子（本荘保育園・園長）
齋藤 美和子（星城こども園・園長）
鈴木 葉子（ひかり保育園・園長）
小野崎 一美（もとにしこども園・園長）
高橋 みのり（みわこども園・園長）

◇日本保育協会永年勤続保育者表彰（職員）

佐藤 麻美（あおぞらこども園・保育教諭）
伊藤 文子（第二ルンビニ園・保育士）
早野 誓子（第二ルンビニ園・保育士）
渡邊 里織（第二ルンビニ園・保育士）
伊藤 早希子（石脇西保育園・保育士）
斎藤 希（石脇北保育園・保育士）
柴田 美奈子（石脇北保育園・主任保育士）
小林 操（風の子保育園・保育士）
柴田 圭子（上北手保育園・保育士）
渡邊 智治（こひつじ保育園・保育士）
遠藤 理恵子（十文字保育園・保育士）
村上 道子（鷹巣東保育園・保育士）
高屋 恵子（中央保育園・保育士）
九嶋 明希子（七日市保育園・保育士）
佐藤 美由紀（七日市保育園・保育士）
酒井 千栄子（にかほ保育園・保育士）
櫻山 まなみ（にかほ保育園・保育士）
佐藤 春奈（にかほ保育園・保育士）
小笠原 恵美（ひかり保育園・主任保育士）
鈴木 紀子（ひかり保育園・保育士）
松永 晴美（ひかり保育園・栄養士）
上野 史子（本荘保育園・栄養士）
渡部 真理子（もりやまこども園・保育教諭）
大友 瑞穂（やまぼと保育園・主任保育士）
加藤 美優紀（吉田保育所・保育士）

秋田県知事表彰

◇社会福祉施設の長及び従事者功労

関根 留美子（第一ルンビニ園・副主任保育士）
須田 ひとみ（本荘保育園・副主任保育士）
竹田 千亜紀（風の子保育園・保育士）
二見 玲子（風の子保育園・保育士）
松田 郁子（大川西根保育園・主任保育士）
小林 裕香（大曲南保育園・主任保育士）
武部 ミユキ（角間川保育園・主任保育士）

秋田県社会福祉協議会

◇秋田県社会福祉協議会会長表彰(社会福祉功劳)

上野 史子(本荘保育園・栄養士)
鈴木 紀子(ひかり保育園・副主任保育士)
佐藤 純子(大川西根保育園・園長補佐兼主任保育士)
佐藤 ルミ子(藤木保育園・園長)
菅原 裕子(大曲中央こども園・副園長)

◇秋田県社会福祉協議会会長表彰(永年勤続功劳)

杓沢 水貴(下鍋倉保育所・調理師)
佐藤 良子(石沢保育園・保育士)
近藤 美穂子(出戸こども園・園長)
佐々木 真弓(追分保育園・保育士)
菅原 幸子(出戸こども園・主幹保育教諭)
瀬下 聡子(天王こども園・保育教諭)
沼田 いく子(出戸こども園・保育教諭)
水沢 麻美(天王こども園・保育教諭)
古関 恵子(深堀保育園・保育士)

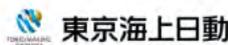
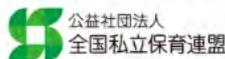
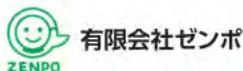
全国保育士会

◇全国保育士会感謝状

児玉 由美子(あおぞらこども園・副主任保育士)
三政 琴美(城南保育園・保育士)
福岡 佳奈(前田保育園・保育士)
藤嶋 匡祥(しゃろーむ・副園長)
渡邊 亜希子(綴子保育園・保育士)
谷口 裕美(船越保育園・主任保育士)
藤田 麻衣(第二ルンビニ園・保育士)
佐々木 奈々子(第二ルンビニ園・保育士)
播磨谷 順子(第二ルンビニ園・保育士)
神澤 郁子(牛島ルンビニ園・主任保育士)
保坂 亜希(白百合保育園・保育士)

加藤 純子(白百合いずみこども園・保育士)
佐藤 奈緒子(ならやま認定こども園・保育士)
森 麻奈美(ならやま認定こども園・保育士)
佐藤 里子(ならやま認定こども園・栄養士)
関谷 京子(ならやま認定こども園・調理員)
加茂谷 結香(ひがし保育園・保育士)
石井 誉子(やどめ保育園・保育士)
伊藤 早希子(石脇西保育園・副主任保育士)
柴田 美奈子(石脇北保育園・主任保育士)
斎藤 希(石脇北保育園・保育士)
高屋 恵子(中央保育園・保育士)
佐藤 春奈(にかほ保育園・保育士)
酒井 千栄子(にかほ保育園・保育士)
櫻山 まなみ(にかほ保育園・保育士)
小松 舞(勢至保育園・保育士)
佐藤 結記子(勢至保育園・保育士)
加藤 佳澄(角館西保育園・主任保育士)
田口 美由輝(六郷わくわく園・保育教諭)
菅原 裕子(角館こども園・主査保育教諭)
大石 智恵(角館こども園・主査保育教諭)
猪俣 馨(吉田保育所・保育士)
島田 亜紀子(大森保育園・主任保育士)
遠藤 理恵子(十文字保育園・保育士)
大日向 めぐみ(さんない保育園・主任保育士)
松田 和子(深堀保育園・主任保育士)
阿部 妙子(深堀保育園・主任保育士)
杓澤 栄美子(いわさきこども園・保育教諭)
大井 伸子(あおぞらこども園・保育教諭)
木村 雅代(あおぞらこども園・保育教諭)
築田 真由美(あおぞらこども園・保育教諭)
藤原 喜和子(みわこども園・主任保育教諭)

「全私保連推奨」各種団体保険制度



ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

「園賠償責任保険（新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯）」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

Web
加入
可能

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

Web
加入
可能

しょうがくせいほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、自転車条例で義務化されている個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

Web
加入
可能

取扱
代理店

有限会社ゼンポ
TEL : 03-3865-3881
FAX : 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL : 03-3515-4134

このチラシは、このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯賠償責任保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約多額付 費用・利益保障）雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷病保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の対応は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお越しする保険約款になりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨（総代理店）

導入費用
無料



「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました！

ひと月
あたり **5,000**円
(税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金が変更になる可能性があります。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、佐藤>

「保育あきた」編集後記

令和5年度も残りわずか。新年度に向け、各園でも慌ただしくお忙しい毎日をお過ごしかと思います。

会員園の皆様方には今年度も広報活動へのご理解ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今年は元旦から震度七の能登半島地震の発生、翌日には日航機と海上保安機が衝突炎上するなど波乱の幕開けとなりました。政治と金の問題など、不安定な政治に物価の高騰と、我々の日常生活にも響いてきております。今の子ども達の為にも明るい未来となることを祈るばかりです。

令和6年度も、会員園の皆様にとって有意義な情報発信ができるよう、部員一同頑張っております。引き続きご協力の程よろしくお願い致します。

(広報部長 川嶋 博英)

広報部

担当副会長 岸 大助 (湯沢こども園)

部長 川嶋 博英 (子吉保育園)

副部長 佐川 ひとみ (幼保連携型認定こども園 ふじ)

” 津村 侑弥 (明照保育園)

部員 相馬 千春 (前田保育園)

” 仲塚 鈴香 (協本保育園)

” 大門 ヒサ子 (こどものくに保育園)

” 西村 優子 (みたけこども園)

” 南部 芳道 (金沢保育園)

” 鈴木 直子 (にこにここども園)